

# 平成27年度 学校評価書（前期）

## 学校教育目標

豊かな人間性を育み、たくましく生き抜いていこうとする生徒の育成

## 〈今年度の重点目標〉

良さを認め合いながら、一歩前に出て活動できる生徒の育成



平成27年9月17日  
大館市立北陽中学校

# V 評価

## ア 学校運営の状況

自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	目指す方向が共通理解され取組も組織的で意識が高く成果も顕著
	良好		4	目指す方向が共通理解され取組も組織的で成果が多く見られる
	おおむね良好		3	目指す方向が明確で一定の取組が行われており成果も見られる
	やや不十分		2	目指す方向がやや不明確で取組もばらつきがあり成果が安定しない
	努力を要する		1	目指す方向が不明確で取組体制や取組方に解決すべき課題が多い

## I 組織運営

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
特色ある学校づくりが計画的・組織的に推進されている。	前期 おおむね良好	おおむね良好	〇副担任制の活用や三役会・学年主任会の定期的実施に加え、進路相談、TTでの道徳授業を通して生徒を育て、学校経営が順調に進められている。
	年度		

の自己改善策の概要と学校

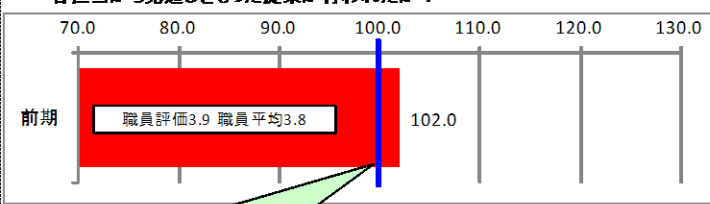
〇開校初年度に当たり、校長の運営方針を職員が共有し、共通実践するように努めている。三役会、学年主任会の定期的な実施についてはアンケートの結果が4.0の評価であり、今後も具体的な事案をもとに見直しをもてる会議を継続したい。今年度取り入れた副担任制の活用については、朝の会・帰りの会のみならず、教育相談や進路相談など担任、副担任による道徳授業の実施などいろいろな試みを通して、生徒の心に寄り添える学級経営につなげているとことである。事務職員との連携については予算管理、設備管理、設備補修等が迅速かつ正確に行われており、4.3以上の高い評価を得ている。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
1 組織的運営体制の確立	(1) 運営方針の浸透	三役会(校長、教頭、教務主任)の設立と効果的な運営	3	
	(2) 学年部組織の強化	学年間の調整を図る「学年コーディネーター」の設置と運用 副担任制を活用した学年組織の強化		
2 諸会議の効果的な運営	(3) 月1回の職員会議運営の工夫	提案事項の事前確認による、機を逃さない指導部長提案の支援	3	
	(4) 主任層教員間の共通理解の場の確保	定期的な三役会及び週1回の学年主任会の実施		
3 事務職員との連携	(5) 事務処理の効率化・適正化と設備管理	事務職員との連携による事務処理負担の軽減と指導時間の確保	4	
		定期的な点検による設備管理及び予算管理の適正化		

### 【1に関連するデータ】

#### (1) 運営方針の浸透

■ 校務部会、運営委員会、職員会議が機能的に推進され、各担当から見直しをもった提案が行われたか？



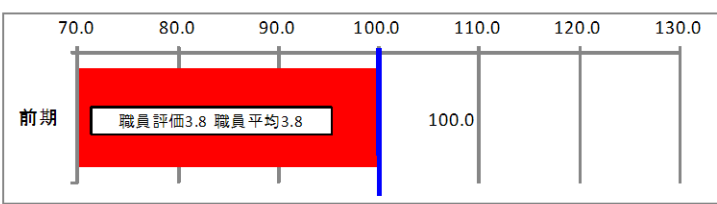
グラフは、職員アンケート全項目の評価平均値を100としたときの、当該項目の評価指数を表している。つまり、指数が100を超えていれば、職員は他の施策よりも良好と判断しており、100に届かない場合はその逆ということになる。

【職員アンケート自由記述】

〇三役会や主任会は学校創設期のみならず、今後も継続していけたらと思う。  
 〇事務職員との連携、いつもありがた思っています。  
 ●自分が追われている感で見直しをもって提案できておらず、先生方に迷惑をかけています。

【アンケート種別】 ○生徒 □保護者 ■教職員  
 【5段階評価】 5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや不十分 1:不十分

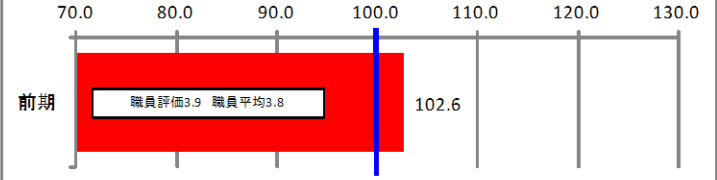
#### ■ 副担任制を活用した学年組織の運営がなされていたか？



### 【2に関連するデータ】

#### (3) 月1回の職員会議運営の工夫

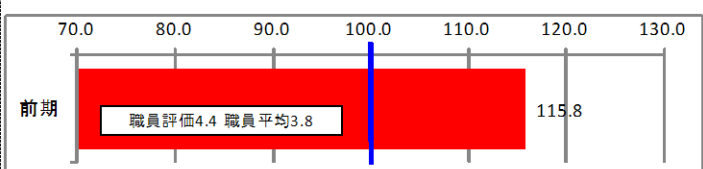
■ 職員会議案件が見直しをもって提案されるような働きかけが行われていたか。



### 【3に関連するデータ】

#### (5) 事務処理の効率化・適正化と設備管理

■ 事務職員との連携による事務処理負担の軽減がなされていたか？



■ 配当予算が適切に周知され、消耗品の調整及び施設設備補修等が効果的に行われていたか？



**ア 学校運営の状況**

**II 教師の研修**

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の教育活動のレベルアップのために、教職員の研修が活発に行われている。	前期 おおむね 良好	おおむね 良好	〇生徒の実態を生かした授業力向上を図る研修を推進しており、特に3年生においては5教科すべてでTT体制による指導をするなど、全職員の共通理解のもと授業力を向上するための相互授業参観や研究会を積み重ね、成果を上げている。

**自己評価の概要と学校の改善策**

〇統合により学習経験の異なる生徒が学習集団を形成することから、生徒の実態を生かした授業力向上を図る研修を推進している。学力向上に関しては、統合以前の各校のデータから学習の定着度の差が大きいと判断し、生徒一人一人の学力向上をねらった少人数学習を可能な限り行うこととした。3年生においては5教科すべてでTT体制を組み、学習形態を工夫しながら実践しているところである。成果の手ごたえはまだ得られていないが、今後の諸検査データの分析により判断していきたい。研究の主軸である言語活動の充実に関しては、今後も継続的な指導が必要である。生徒のアンケート結果にあるとおり、自分の考えを発表する時間は確保されているものの、「話形やハンドサインを使って発表をつなげている」と答えた生徒の評価は他の項目と比べて低かった。個々の積極性の違いはあるものの、意見交流の意図、話し合う価値のある話題(あるいは価値ある発問)、ゴール(よりよい答え)に向かって高め合っていく発表のつなぎ方などを、教師が熟考した上で実践していくことで成果が現れると考えている。ゆえに教師の授業力(コーディネート力)を高めるために、全職員の共通理解のもと相互授業参観や研究会を積み重ねていき成果に結びつけたい。生徒理解に関する研修はアセス結果の分析とそれに基づいた対応について指導主事を招いて行った。異校種との連携に関しては、3小学校はもとより大館高校の教諭による授業参観及び研究会への参加が実現した。今後も他校と協力して推進していきたい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
4 授業改善の推進	(6) 個に応じた指導と成果の確認	少人数学習の推進及び諸検査データの分析と活用 授業アンケートの実施と活用 *前期は評価対象から除外	3	
	(7) 研究計画の策定と検証	全教科での言語活動の実施と充実		
5 研修の実施及び活用	(8) 子どもをとらえる見識の向上	教育相談についての研修の実施と効果的相談体制づくり	3	
		小学校、高等学校の実態理解と指導への活用		

(〇生徒 □保護者 ■教職員) ※5段階評価【5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題】

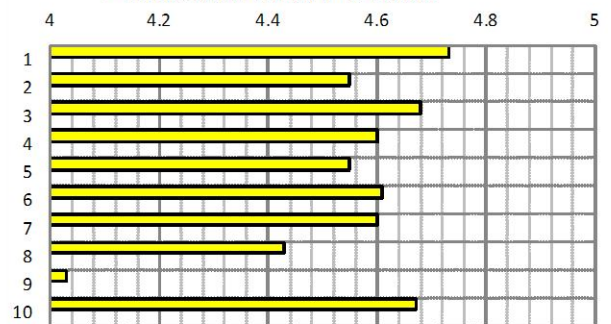
**【4に関連するデータ】**

- 個に応じた指導や少人数学習の推進が図られ、効果をあげることができたか。
- 各教科で言語活動の実施と充実が図られていたか。
- 〇授業では、自分の考えや思いを周囲に伝える力が育っていると思いますか。
- 〇全教科で自分の考えを発表する時間は確保されていましたか。

H27前期	年度
3.8	
3.4	
3.9	
4.5	



生徒の授業評価 全教科の平均値【前期】



**〇生徒による授業評価**

- 1 学習課題は、学習することやゴールがわかりやすいように示されていましたか。
- 2 学習課題や質問は、自分の考えや思いがもちやすいものでしたか。
- 3 黒板には、50分ものさしや学習内容がわかりやすく示されていましたか。
- 4 発表や話し合い、意見交換などの友達との活動がありましたか。
- 5 授業はテンポよく進み、できた人が先に進めるように指示されていましたか。
- 6 学習したことをまとめたり、身に付けたことを使って練習したりする時間が確保されていましたか。
- 7 学習内容はわかりやすいですか。
- 8 あなたは、いつも意欲的に授業に取り組んでいますか。
- 9 話形やハンドサインを使って、発表をつなげていますか。
- 10 話し合いや友達との活動は学習の理解に役立っていますか。

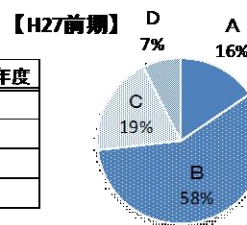
**□学校での教科指導について、お子さんは**

**〓どのように言っていますか。**

- A どの教科も十分指導されている。
- B どちらかというによく指導されている。
- C どちらかというあまりよく指導されていない。
- D どの教科ももっとよく指導してほしい。

H27前期	年度
A 29	
B 108	
C 36	
D 14	

(単位:人)



**【5に関連するデータ】**

- 教育相談の研修と効果的な相談体制づくりがなされていたか。
- 小学校、高等学校との連携を図り、指導に生かすことができたか。
- 〇悩み、困りごとを友達や先生に相談できる雰囲気がつくられていると思いますか。

H27前期	年度
3.5	
3.4	
4.2	

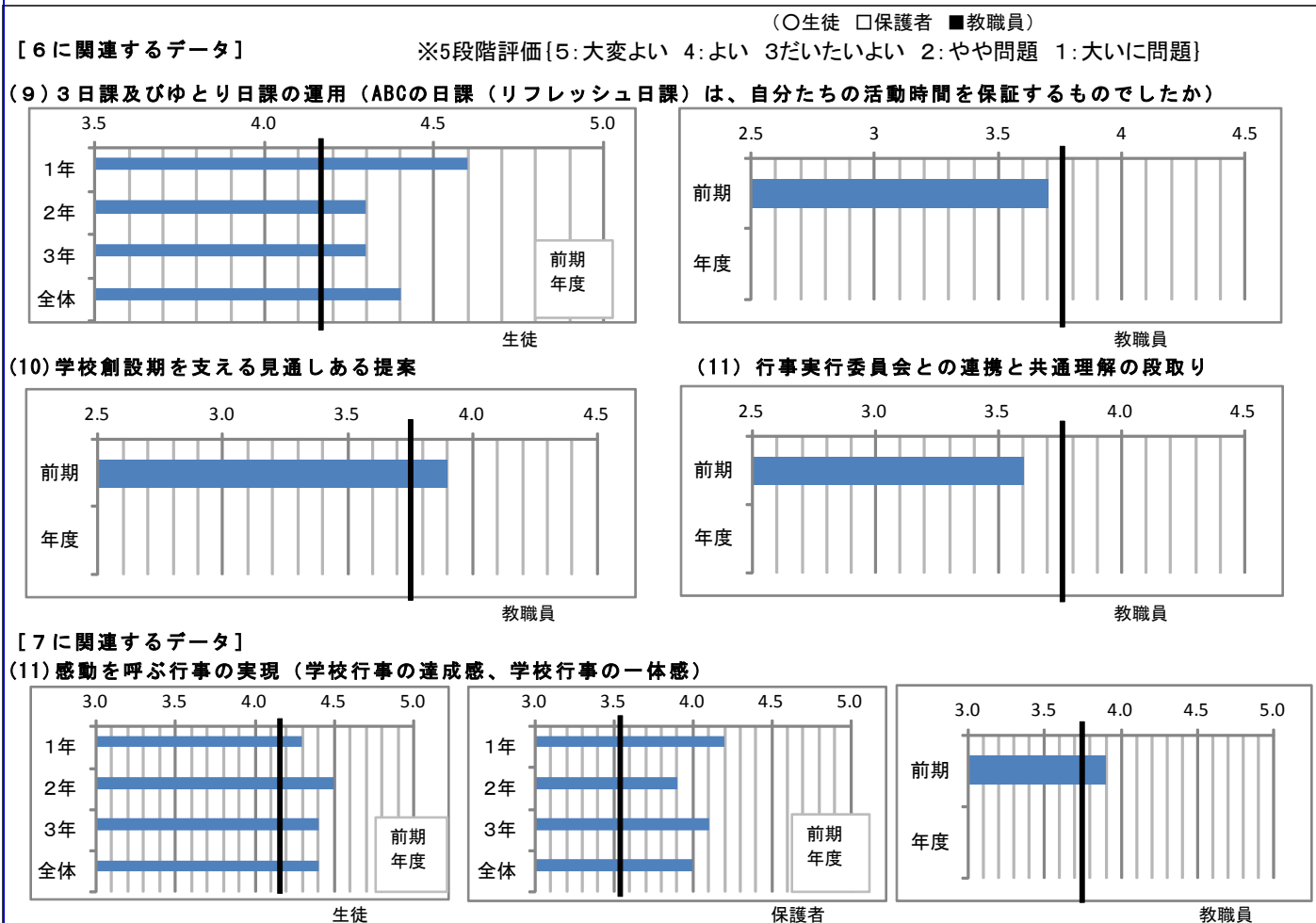


## ア 学校運営の状況

### Ⅲ 特色ある教育活動

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
地域に根ざした特色ある教育活動に、誇りと気概をもって取り組んでいる。	前期	おおむね良好	良好	○北陽中の礎を築こうとする教育活動に取り組んでおり、①行事・会議等の提案の仕方、②保護者への情報提供を進めており、さらに職員・生徒が一丸となって地域・保護者とともに歩む学校を創り上げていこうとしている。
	年度			
自己評価の概要と学校の改善策	<p>○開校初年度、生徒・教職員は多忙の中、誇りと気概を失わず、「北陽中の礎を築いていこう」という意気込みをもって教育活動に取り組んでいる。しかしながら、地域からの理解・協力は得られているものの、保護者へは、その思いが十分に伝わっていないようである。これらの状況を鑑み、「特色ある教育活動」を推進して行くために、今後二つの課題に取り組んでいく。一つめは、行事・会議等の提案の仕方である。行事においては、事前の声かけはもちろん、生徒が主体的に活動できるように内容を精査していきたい。また、会議においては、ポイントを絞り、協議事項と確認事項を分類した形で話し合いを進め、時間短縮に努めたい。二つめは、保護者への情報提供である。各学年の通信や学校報で情報を提供しているものの、十分かどうか検討していく。配布物が保護者に届いているのか、情報提供機会が少ないのかを確認しながら検討していきたい。</p> <p>「産みの苦しみ」は予想をはるかに越えたものであるが、「気付き」「見通し」「実践」「協力」を大切にしながら、さらに職員、生徒が一丸となって、地域・保護者とともに歩む学校を創り上げていきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
6 特色ある教育課程の編成	(9) 生徒の活動を支える日課の工夫	3日課及びゆとり日課の運用	3	
	(10) 学校創設期を支える見通しある提案	職員会議案件の年間予定の提示と調整		
7 学校行事等の計画	(11) 感動を呼ぶ学校行事の実現	行事実行委員会との連携と共通理解の段取り	3	
		地域連携活動の継続(教育課程及び行事予定への位置づけ)		



イ 生徒の状況

IV 確かな学力,基本的学習習慣

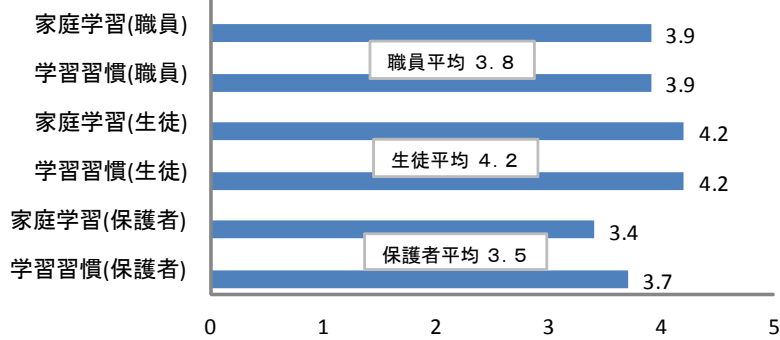
学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
意欲的に授業に臨み,基本的学習習慣を身に付けながら,確かな学力を身に付けさせている。	前期	おおむね良好	○子どもたちが主体的に自分に合った学習をしていけるようになることが学力向上につながるので,小学校と連携しながら三年間を見通した指導を目指し,授業の充実を図ろうとしている。
	年度		
自己評価の概要と学校の改善策	○「主体的な学習態度」に関しては,生徒や職員の評価に比べて保護者の評価が低い。特に家庭学習への取組みについての評価が低く,さらに自由記述からも「勉強の仕方が分からない」「勉強時間よりも勉強の質が大切」などの記述が見られた。家庭学習の取組み方については,子どもたちがより主体的に自分に合った学習をしていけるようになることが学力向上につながるので,小学校と連携しながら,3年間を見通した指導が必要である。		
	○「授業の充実」に関しては,教科別アンケートから教科によってばらつきがあることが分かった。また,言語活動の充実に関する評価が低かった。統合した三校の生徒の実態が大きく違い,1学期は基本的学習習慣に指導の重きがいったしまったことが原因の一つだと考えられる。1学期後半からは,ハンドサインや話型の活用がより有効となるように,「意見のつなぎ方」を見直して指導をしてきているので,今後とも継続して,全職員が共通実践できるような取組みを研修部と連携しながら押し進めていきたい。		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
8 基本的学習習慣	(12) 主体的学習態度の育成	各教科共通の「学習習慣項目」の提示と実践 家庭学習充実のための働きかけ(PUN,各教科の学習アドバイス,ノート展)	3	
9 確かな学力	(13) 授業の充実	1単位時間の効果的なコーディネート(50分ものさし,テンポのよい授業,まとめの確保) 徹底した繰り返し学習(ドリル学習)の実施	3	
	(14) 活用する力を身に付けるための取組	ハンドサインや話型を手がかりにした言語活動の充実 コラム学習や全校言語活動による一人一人の表現力の向上		

※5段階評価{5:大変よい 4:よい 3だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題}

[ 8に関するデータ ]

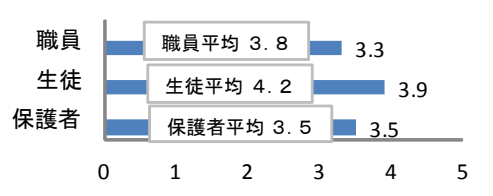
主体的学習態度の育成



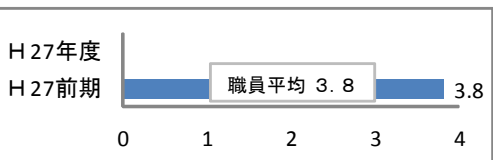
[ 9に関連するデータ ]

授業の充実

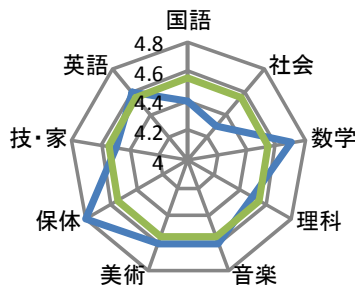
言語活動の充実



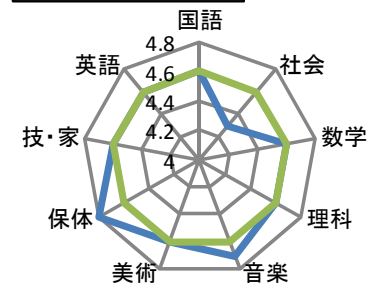
1単位時間の効果的なコーディネート (職員)



テンポのよい授業(生徒)



まとめの確保(生徒)



— H27平均 — H27前期

イ 生徒の状況

V 自主的・自律的な生活、望ましい生活習慣

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
生徒一人一人の心身の状態に目を向けながら、明るく心のこもった挨拶など規律ある落ち着いた生活を実現している。	前期 おおむね良好	おおむね良好	〇あやめ運動が街頭指導のコメント、校外学習、地域の運動会等では生徒のあいさつが地域を明るくしていると言われている。ノーメディアの達成率も高く良好な状況にある。
改 善 己 評 価 の 概 要 と 学 校 の	年度		〇「あやめ運動」に関する項目では、生徒4.1と評価が高かった。街頭指導のコメントや校外学習、地域の運動会等では北陽中生の挨拶が地域を明るくしてくれるとお褒めの言葉をいただいた。一方で、以前に比べて元気な挨拶が少なくなったという声が保護者3.6、教職員3.3と低い評価であった。今後も生徒会執行部の主体的な活動を促しながら、月ごとに重点項目を示していつでも・どこでも・誰にでも・ひとりでも元気な挨拶ができるように生徒を育てていきたい。 〇「夜9時以降ノーメディア」の達成度は半数以上で、達成できていない生徒は30名いる。そのうち半数が2年生。達成できていない生徒は、就寝時刻が遅くなることも懸念される。就寝時刻が午後11時以降の生徒は3年生が半数近くになっている。家庭学習の始める時間をできるだけ早くして、早めの就寝を呼びかけていきたい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
10 規律ある学校生活	(15) 集団生活のきまりの理解と遵守	「あやめ運動」の推進と自律心の育成 生徒指導共通実践事項の設定と実施 地域や小学校と連携した安全指導	3	
11 心身の健康の保持増進	(16) 健全な生活習慣	保護者を巻き込んだノーメディアデー運動の定着 早寝、早起き、朝ごはんの啓蒙と体力向上の働きかけ	3	
12 教育相談の実践	(17) 日常的・積極的な教育相談と生徒理解 (18) 理解と指導をつなぐ「見立て力」の向上	「いつでも、どこでも」教育相談の推進 多様な手立てによる生徒理解 定期的な生徒を語る会と関係機関と連携した事例検討会の実施	3	

[10に関連するデータ]

(〇生徒 □保護者 ■教職員)

※5段階評価{5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題}

(15) 集団生活のきまりの理解と遵守

- 〇「あやめ運動」を意識した学校生活を送ることができましたか。
- 〇 学校生活のきまりを、しっかり守ろうとしましたか。
- 「あやめ運動」=(元気なあいさつ、やくそくを守る、めあてをもって)により、規律ある学校生活が実現していると思いますか。
- 小学校や地域と連携した安全指導が、効果的に進められていると思いますか。
- 生徒に「あやめ運動」を意識させる手立ては適切だったか。
- 生徒指導共通実践事項についての共通理解が図られ、全校体制で指導の徹底が図られていたか。
- 安全指導を推進する上で、小学校や地域と連携を図っていたか。

H27前	H27度
4.1	
4.4	
3.6	
3.7	
3.3	
3.7	
3.8	

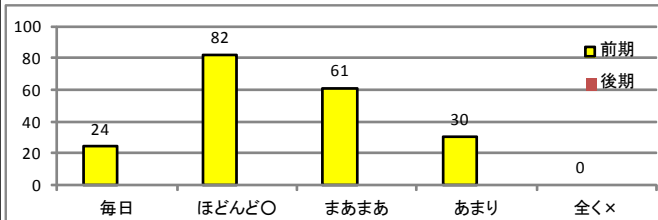
※校外生徒指導部PTAIによる街頭指導のコメント

- 〇自転車の生徒は「あいさつ」をきちんとしてくれました。
- 〇あいさつがよくできていたと思います。
- 〇歩道では自転車を降りて渡ることができていました。
- ▲1年生のあいさつの声が少し小さい気がしましたが、これからは期待します。
- 危ないと思ったのは、自転車が自転車を追い越す時、後ろを確認せずに道路にはみだしていることです。

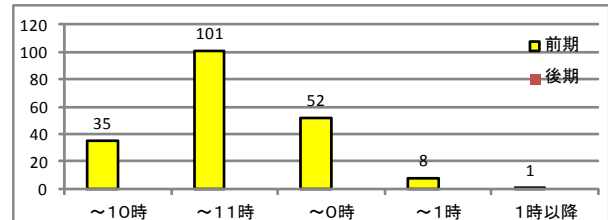
[11に関連するデータ]

(16) 健全な生活習慣

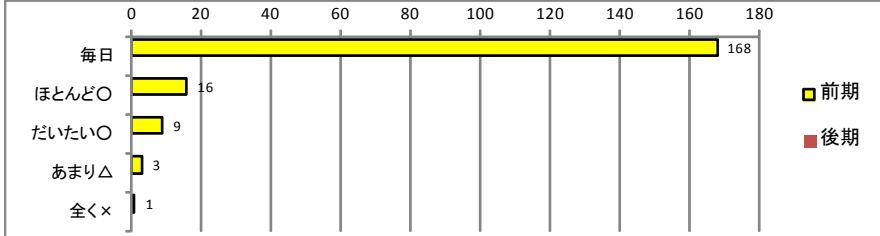
〇 あなたの「夜9時以降ノーメディア」の達成度は次のどれですか。(単位:人)



〇 平日の就寝時刻は次のどれですか。(単位:人)



〇 毎日朝ごはんを食べますか。(単位:人)



- お子さんや各家庭に対するノーメディアデーの働きかけは適切ですか。
- 学校の取組(チェックカードなど)は、「早寝、早起き、朝ごはん」の意識化に役立っていますか。
- 「ノーメディアデー」の取組について、家庭の理解を得る働きかけが行われていたか

H27前	H27度
3.3	
3.3	
3.6	

[12に関連するデータ]

(17) 日常的・積極的な教育相談と生徒理解 (18) 理解と指導をつなぐ「見立て力」の向上

- 〇 悩み、困りごとを、友達や先生に相談できる雰囲気がつくられていると思いますか。
- 〇 より良い学級、学年にしようと思えましたか。
- 担任やSCによる教育相談が機を逃さずに行われていたか。
- 多様な手立てによる生徒理解が行われていたか。
- 生徒を語る会や事例検討会が確かな状況把握をもとに行われていたか。

H27前	H27度
4.2	
4.2	
3.9	
3.9	
3.7	

イ 生徒の状況

VI 思いやりの心,たぐましい心

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
出身校に対する誇りを基盤としながら、お互いの良さを認め合い、協力し合うことができる、豊かな人間性を育てている。	前期 良好	良好	○朝の会や帰りの会、道徳、学活、面談など学級担任・副担任が学級で生徒の心に寄り添った指導を続けており、観察し、励ますことで新生北陽中の行事を創っている。
自己評価の概要と学校の改善策	年度		○今年度は副担任制を導入し、朝の会や帰りの会、道徳・学活、面談など、可能な限り複数の教師が学級に入り、心に寄り添った指導を心がけている。より多くの視点から生徒を観察することで、生徒のよさを見つけたり、日々の変化に気付いたりすることができつつある。朝・帰りの会スピーチや、学級の課題等を発表する場などを取り入れたが、話し合いとまでは至っていない。話し合い活動を取り入れた学活の時間を定期的に設定していきたい。 ○前期の学校行事では、生徒自身の力で企画を考えたり、取り組み方を工夫したりする場面を意図的に設定することができ、生徒の達成感の数値も高い。北陽中初年度ということで、人間関係も手探りしながらの活動であったが、生徒・保護者双方とも、満足度の高い行事になっていたと思う。2学期の大きな行事である学校祭では、三校の伝統を生かしつつ、新生北陽中の行事を創っていくのだ、という気概をもたせ、より生徒の主体性を生かした行事にしたい。 ○生徒会・委員会活動は、旧二中のものをベースにして、三校の生徒代表が中心となって取り組んでいる。経験値の差から、リーダーシップが曖昧になってしまった、という先生方からの意見は、まさにその通りである。一人ひとりが責任感をもち、主体的に活動できるように、教師側からの支援の仕方を工夫していきたい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
13より良い集団生活を目指す学級活動	(19) 本音で語り合える学級づくり	TTによる学級経営の推進(副担任制度の導入と活用) 朝の会、帰りの会の工夫、話し合い活動の充実	3	
	(20) 学校行事を生かした「高め合う学級づくり」	リーダーを中心とした学級集団の育成(リーダーシップ、フォロワーシップの育成)		
14校史1ページ目を刻む気概ある生徒会	(21) 成し遂げる気概にあふれた学校行事	生徒会による生徒主体の学校行事	4	
	(22) 創造的委員会活動	新しい校風を創る日常活動の創意工夫 定期集会(朝会)での委員会発表の工夫		

(○生徒 □保護者 ■教職員)

[13に関連するデータ] ※5段階評価[5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題]

(19)本音で語り合える学級づくり

	H27前	平均
○朝の会や帰りの会で活躍する場面がありましたか。	↓3.9	4.2
○悩み、困りごとを友達や先生に相談できる雰囲気がつくられていると思いますか	4.2	
○担任と副担任は、協力して学級のために支援をしてくれましたか	↑4.7	3.8
■朝の会、帰りの会は、生徒の自主性を育てる工夫がされていたか。	3.6	
■副担任制を活用した学級経営が図られていたか。	3.9	



フレンドリー集会での発言場面

(20)学校行事を生かした「高め合う学級づくり」

○お互いの良さを認め合いながら、協力して学級づくりに励むことができましたか	4.3	4.2
○よりよい学級、学年にしようと努力することができましたか	4.2	
■リーダーを中心とした学級集団づくりの育成が図られていたか。	3.5	3.8



生徒・地域が一つになった運動会

[14関連するデータ]

(21)成し遂げる気概にあふれた学校行事

○学校行事での達成感ほどの程度でしたか。	4.4	4.2
□学校行事は、学級や学年が一つにまとまって活躍できるものでしたか	↑4.0	
□保護者の皆さんと一緒に創り上げる学校行事になっていましたか。	3.7	3.8
■生徒会による生徒主体の学校行事が図られていたか。	3.7	

(22)創造的委員会活動

○よりよい学校を作ろうと、生徒会活動に積極的に取り組みましたか。	4.0	4.2
○他の人の役に立つ行動や他の人を思いやる行動ができましたか。	4.1	
■新しい校風をつくる日常活動の工夫がされていたか	3.4	3.8



地域のみんなで防災活動

◇8月の地域防災活動への参加状況(人)

生徒	地域住民	小学生
184	190	47

◇1月の地域防災活動への参加状況

生徒	地域住民	小学生

**ア 学校運営の状況**

**Ⅶ 保護者・地域との連携**

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
新設された学区において、保護者地域との信頼関係を積極的に構築するとともに、具体的連携の基礎を築いている。	前期	おおむね良好	○統合した3地区4,500世帯に学校報を配布するシステムを構築し、生徒たちにボランティア活動の意義を自覚させ、PTA会員の親睦や融和を図り、生徒に積極的な活動をさせるようにしている。
	年度	おおむね良好	
の自己評価の概要と学校	○統合した3地区約4,500世帯に学校報を配布するシステムを町内役員の協力を得て、構築することができた。PTA活動ではPTA会員の親睦と融和をかねて、レクリエーションや懇親会を開催した。また、子どもハローワークの積極的活用を図り、生徒は年2回以上参加することを目標として取り組んでいる。矢立小学校の運動会のボランティア活動を契機に矢立地区の方から感謝の手紙をいただいたり、激励会に小学生が応援に駆けつけたり、地域の方との交流も生まれている。夏休み中に行った防災活動では各地区によって特色ある活動が行われた。町内によって、夏祭り前の除草活動を町内の方と一緒に参加したり、小学生と合同でクリーンアップをしたりして、地区の実情に合わせた活動を行うことができた。一部に活動日を忘れて参加しない生徒もいたので、活動の意義を自覚させ、責任をもって活動できるように事前の働きかけを大切にしていきたい。		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
15 情報の発信の工夫	(23) 学校と家庭・地域をつなぐ諸通信	統合3校区を網羅する学校報配布システムの構築と運用	4	
16 地域の教育力の活用	(24) 統合PTAの融和と新生PTA創設の支援	PTA活動への積極的支援と働きかけ	3	
	(25) 「子どもハローワーク」の積極的活用	校外での活動による新生中学校の積極的アピール		
	(26) 地域連携委員会の立ち上げと運営	3地区の地域行事に対する参加計画の立案		
		防災活動を柱とした地域ボランティア活動の推進		

**【15に関連するデータ】**

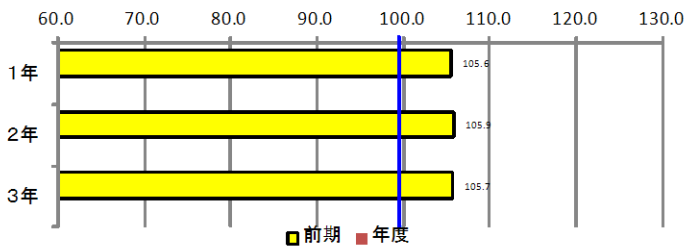
**(23) 学校と家庭・地域をつなぐ諸通信**

○生徒アンケート全26項目 □保護者アンケート全19項目 ■教職員アンケート全41項目  
アンケート種別ごとに、評価値の平均を100としたとき、それぞれの項目の評価指数を算出

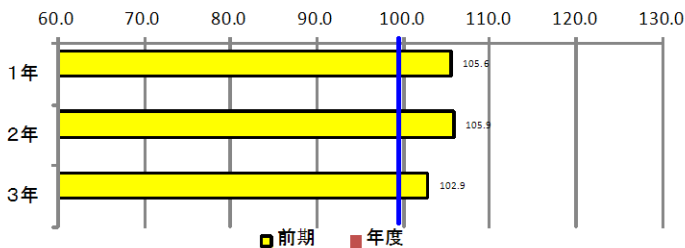
**【□保護者の評価】**

(評価平均 1年3.6 2年3.4 3年3.5)

学校報による効果的な発信(平均を100としたときの評価指数)



おたより・報道で北陽中の良さ実感(平均を100としたときの評価指数)

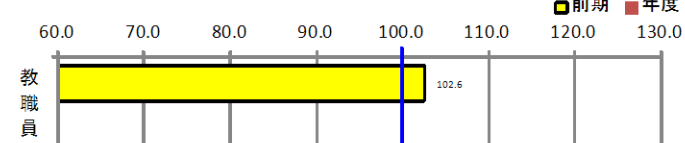


**【16関連するデータ】**

**(24) 地域の教育力の活用**

【■教職員の評価】(評価平均 3.8)

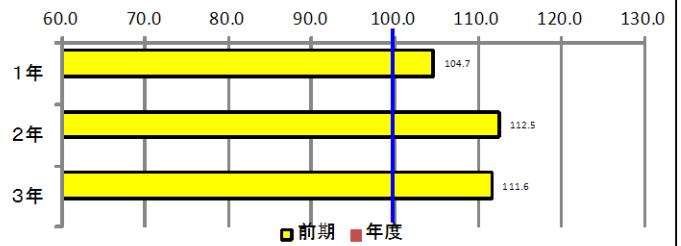
保護者への適切な呼びかけ(平均を100としたときの評価指数)



**【○生徒の評価】**

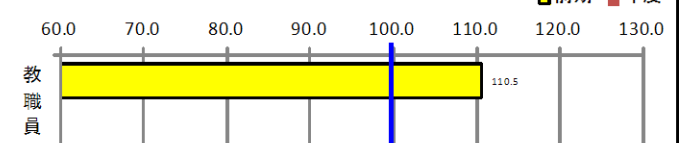
(評価平均 1年4.3 2年4.0 3年4.3)

学校報全戸配布の取組(平均を100としたときの評価指数)

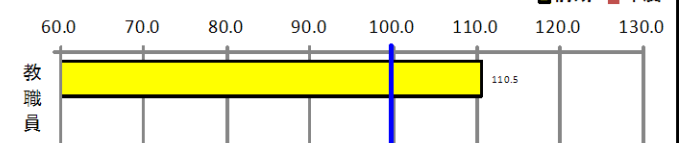


**【■教職員の評価】(評価平均 3.8)**

学校報による適切な発信(平均を100としたときの評価指数)



子どもハローワークの活用(平均を100としたときの評価指数)



◎子どもハローワークの参加延べ人数 117人

【地域の方々等が参加した諸行事と人数】

地域防災活動	AED講習会	給食試食会
町内会長等 55名	生徒45名、保護者・地域28名	保護者18名